

# 伝統工芸班

- 原聡
- 久保亮太



# 目次

- ▶ (1)高岡銅器とは
- ▶ (2)高岡銅器の強み
- ▶ (3)高岡銅器の抱える課題1～4
- ▶ (4)1～4に課題に対しての取り組みについて
- ▶ (5)まとめ

# 高岡銅器とは

- ▶ 江戸初期、加賀藩主前田利長が、藩内の産業発展のために7人の銅器職人を高岡市金屋町に呼び出したのが始まり。
- ▶ 当初職人は鍋や釜などの鉄器生産を行っていたが、地域の需要に応える形で、仏具など日用品生産に根差して発展していった。その後1862年のロンドン万国博覧会や1867年のパリ万国博覧会で取り上げられ、美術工芸輸出品として確固たる地位を占めた。



## 高岡銅器の強み

- ▶ シェアは9割
- ▶ 100年以上の  
伝統



# 高岡銅器低落の原因

- ▶ バブル崩壊以降、個人の平均所得が低下したこと
- ▶ 生活様式が和から洋に変化したこと。
- ▶ 国内、そして海外からの安価商品の流入

# 高岡銅器の課題

- ①シェアは高いが、知名度が低い。
- ②高岡銅器の情報発信や勧業政策において、民と行政との間で齟齬が起きている。
- ③後継者が不足していること。

①シェアは高いが  
一般的な認知には  
遠い。



## ②行政と産業は連携取っているが、認識にいくらかズレがある

- ▶ 補助金の使い方に関する認識にズレがある。
- ▶ セミナーなどを開いてはいるが、実際にはその参加者と継承者となることが結びつかない。高岡銅器製作をただの趣味とされてしまう。



## ③後継者不足問題について

### 業界が抱える最大の問題

- ▶ 高岡銅器に限らず伝統工芸品全体で見ても、担っている人が70代以上を超えてるケースが多い。
- ▶ 高岡銅器の生産は分業体制であるため、もし作業工程の一部においてその技術の後継者が見つからない場合、人手が足りない中、他の工程担当の人が担当するか、あるいは伝統工芸品自体の生産できなくなるというケースになってしまう。
- ▶ 工芸品自体が廃れると、工具を作る職人の生活や後継者問題にも影響を与える。

# ① 知名度が低いこと に対しての解決

- ▶ 海外に高岡銅器の情報を発信したり、デザイナーとの文化交流を行って、お互いの工芸センスを交換し、新たな創造価値を作品に吹き込む。
- ▶ ものづくりの町高岡市として、観光客に体験ワークを提供することで、実際に経験してもらい、能動的に認知してもらう。
- ▶ 高岡と言えばドラえもん。ドラえもんとのコラボ(アニメーションで高岡をアピールするなど)



## ②情報齟齬に関する解決

- ▶ 情報共有にあたって、中間団体を設立、それを介することによって双方向に発信できるように。
- ▶ 市政と産業側でより広く問題提起や議論を重ねることのできる機会を設ける。

### ③後継者問題についての解決

- ▶ 俗に言う3K(きつい、きたない、くさい)といった悪印象の払しょく
- ▶ 本来高岡銅器は分業化されているが、作業全体を一括にある程度まとめる。
- ▶ 設備投資を図ることで、作業自体の環境の改善を試みる。

# まとめ

- ▶ 伝統工芸は様々な問題を抱えているが、従来のやり方(販売形式や、情報発信)通りでは通用しない。変革が必要。
- ▶ 生産者側がいくら努力しても、金銭的にも手間的にも解決はできない。行政が地域全体に関わる問題と捉え、公民が協力していくことが求められる。



## KANAYAと能作